



遠く離れたところから、助けを求める声が聞こえますか？

「左の写真をご覧になって、何を感じられますか？

この子どもは、ポリオで体が衰弱し、歩くことすらできません。

通常の生活ができない、飢餓状態です。

後ろにいるハゲタカは、おそらくこの子どもが息絶えるのを待っているのではないのでしょうか。」

「私達の日本は、豊かでポリオもなく、子ども達は幸せな毎日を送っていますが、日本から遠く離れた所で、このような悲惨な実態が起きています。

このような子どもを救うために、今、私達2650地区のロータリアンが出来ることは、みなさんのポケットのワンコインをご支援いただくことです。」

と、私は公式訪問の際に、このように訴えつづけてまいりました。

私たちはロータリー財団のプログラムにもっと関心を持ち、財団の活動を理解する必要があります。

ポリオから世界中の子どもたちを守るため、

ロータリー財団は1985年以来、ポリオ撲滅活動に貢献してまいりました。

その成果は着実にあがっています。

また財団は、今日まで実に35,000名以上の国際親善奨学生を支援し、

彼等が国連や政府機関、多国籍企業に於いて活躍したり、

医師や教師などに就いて地域社会に貢献しています。

この地球上から貧困や飢餓が減少しない限り、私たちに真の平和が訪れてきません。

ロータリー財団が地域や国際社会への奉仕をさらに

強化増大するためには奉仕活動の充実と資金面の援助が重要であります。

奉仕活動と資金調達とは車の両輪です。

地区として年間150ドルを目標としています。

もうひとつ、地区補助金プログラムへのお願いです。

2650地区は2007～2008年度に実施するプログラムとして、74,223米ドルまで申請が可能です。

皆様の人道的奉仕プロジェクトが順調に進むことを期待しております。



国際ロータリー第2650地区

ガバナー 平井義久

1996年に第2650地区ポリオプラス特別委員長として、モンゴルミッションを起ち上げ、積極的にポリオ撲滅活動を推進。モンゴルにてポリオワクチンを投与するガバナー。